

筑紫（九州）の万葉集と風景画シリーズ（第三十四回）

とよのみちのくち かがみ

「豊 前の鏡の山」かわちのおほきみ ついとうを追悼する歌

おおきみ にくたま とよくに

1) 大君の 和魂あへや 豊国の 鏡の山を

宮と定むる 卷三—417 作者・手持女王たもちのおほきみ

（解説）わが君の御心かなったというのであろうか、こんな豊国の鏡の山を永久の宮として定められるとは。と生前にみずから選んで、王の身でなげ都はるかな地に葬られたのかと痛恨した歌であろうとの説がある。

・この万葉集の題詞は「河内王かわちのおほきみを豊前の国の鏡の山に葬る時に、手持女王が作る歌三首」の内の一首である。

・「豊国の鏡の山」は本シリーズ第31回の「香春の鏡山」かわらと同地をいう。「鏡山」は福岡県東北部に位置する福岡県田川郡香春町にある。

・香春町町史等には香春町は北部には玄界灘に面する北九州市。また、東の隣接地には古代、豊前国の中心地で国府があつた現・福岡県京都郡みやこ町があり、さらに東部に進むと瀬戸内海・周防灘に面する現・行橋市に至るが奈良時代には、都から大宰府に海路で赴任する官人達あるいは豊前国国府への用務のため官人達が、この香春町を東西に通じる官道「田河道」等を利用するなど交通の要衝として栄えてきた。と記されている。

・現在この地への交通機関の一つである福岡県北九州市小倉と大分県日田市を結ぶJR九州・日田英彦山線にある「香春駅」から線路伝いに北東へ

2 km 程いくと北側の田園の中に鏡山神社の大鳥居が建つ。その下を通る参道の突きあたりに林がこんもり茂り山の頂きに神功皇后を祭る鏡山神社がある「鏡山」である。この山の裾の道を左折し西へ約150 m丘陵地沿に進むと、丘陵突端付近にフェンスに囲まれた小丘がある。古墳の石蓋らしきものがフェンス越しに見える。これが宮内庁によって皇族の墳墓とされ、この地域の旧村名から「勾まがり金陵墓参考地」とされている古墳で外輪崎古墳とも呼ばれている。被葬者は九州全体を総督する大宰府の長官「大宰帥」ださいのそちであった河内王の墳墓であるとされ管理されている。

・左の写真では大鳥居の正面は鏡山、向かって左、西側に鏡山から低い丘陵が連なっているが、この西端の小丘に河内王陵墓がある。後方の山は三つの峰からなる香春のシンボル「香春岳・三の岳」



・なお、河内王の墳墓については一部の人たちから香春地域内の他の場所ではないかとの疑義が唱えられていることが町史などに記されている。

・河内王は持統天皇三年（689）に筑紫大宰（大宰府長官）となり、同八年（694）に赴任地の大宰府で亡くなられたとされているが、この万葉集にもあるように都から遠く離れ、大宰府からも約70キロも離れた静かな香春の鏡山に葬られたのは河内王は大宰府赴任の際、或いは豊国視察の際に香春郷のすばらしき風景を見て生前、殊に香春の郷を愛されたことから遺言によってこの地に墳墓が設けられたとの伝説もある。

・作者・手持女王は河内王の妻かという説があるが伝不詳である。

・手持女王は次の二首を続けて作っている。

2) 豊国の 鏡の山の 岩戸まで 隠りにけらし

いわと

こも

待てど来まさず

卷三—418

（解説）ここ豊国の鏡の山の岩戸をぴったり閉めて、籠ってしまわれたらしい。いくらお待ちしてもおいでになってはくださらない。

・岩戸は墓室の入口に置く大きな石をいう。

3) 岩戸破る 手力もがも 手弱き 女にしあれ

わ

たぢから

たよわ

をみな

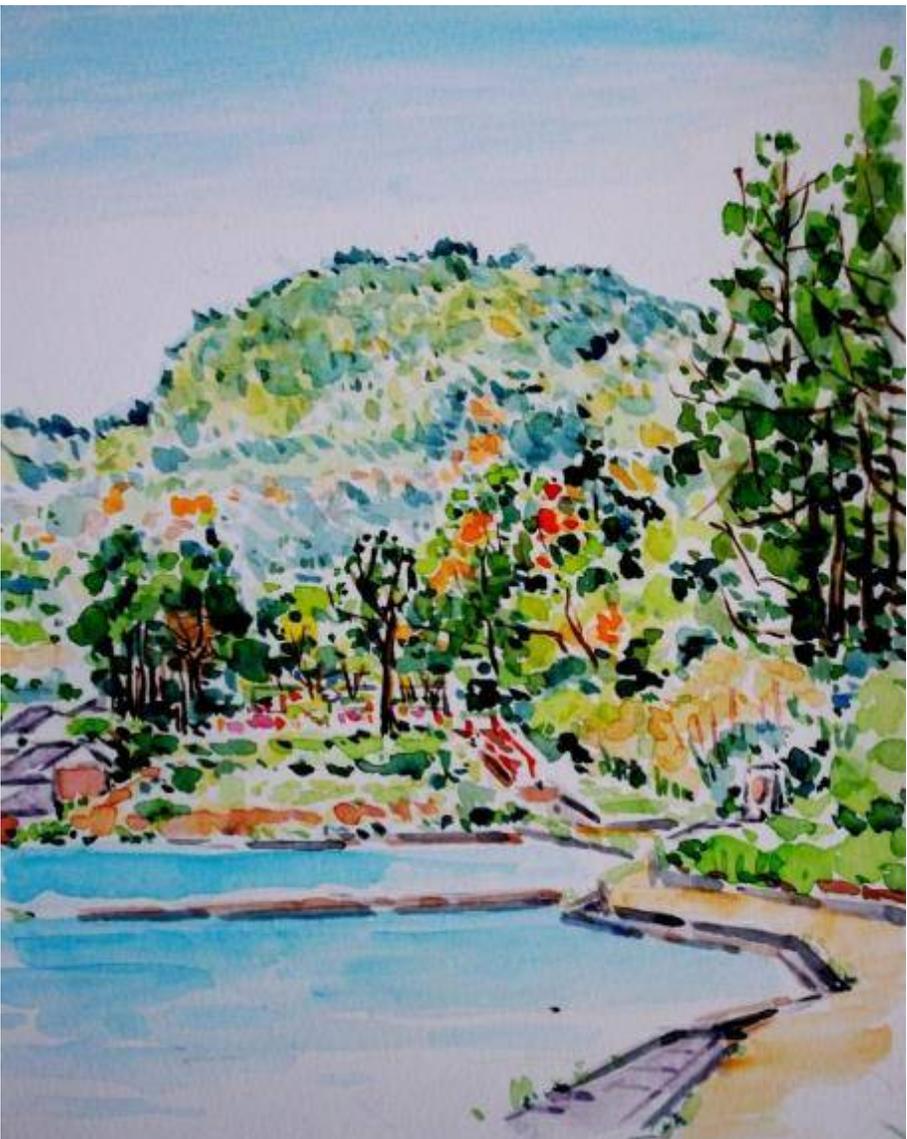
ば すべの知らなく

卷三—419

（解説）岩戸をうちくたく力がこの手にあつたらなあ。ああ、か弱い女の身にはほんとうに、どうしてよいかわからない。

（写生地）鏡山の頂きに鎮座する鏡山神社への上り口から西麓に連なる丘

陵の西端正面の小丘にフェンスに囲まれ宮内庁から陵墓参考地として指定されている「河内王陵墓」と背景に筑豊を象徴する香春のシンボル香春岳などを描く。(池田杏花)



・「河内王陵墓」のある「香春町」位置図



(参考文献) 新潮日本古典集成「万葉集二」、「香春町町史」など